

～ 新市形成に向けて ～

ふじの

まちづくり将来ビジョン

自然に溢れた水源地の環境を活かし、
文化と芸術の香りが漂い感じるまち

市民一人ひとりの声が届き、
心豊に暮らせるまち

平成17年1月

藤野町市町村合併推進協議会
藤野町合併まちづくり検討委員会



森は文明と育み

文化は森をいつ慈しむ

相模の地に

都市と森とが融合し

豊かな心と教養を持つ人を

育成し

理想の郷土を創造する

さきかけ

魁とならん

～ 目 次 ～

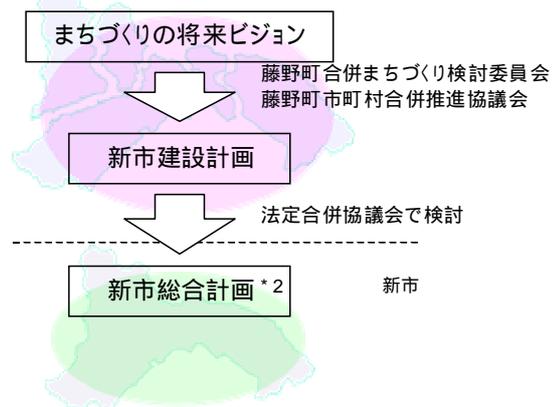
第1章	まちづくりビジョン策定にあたって	1
1.	策定の趣旨	1
2.	策定の方針	1
第2章	まちづくりの目標	2
1.	新市における藤野町地域のめざす姿	2
2.	まちづくりの方針	2
	市民参画	2
	行財政	3
	交通	4
	都市基盤	4
	自然・環境	5
	産業	6
	観光	7
	土地利用	8
	教育・文化	9
	保健・医療・福祉	11
	安全・安心	11
補章		
1.	藤野町の地域特性や課題	13
2.	藤野町合併まちづくり検討委員会の検討経緯	23
3.	藤野町合併まちづくり検討委員会 委員名簿	24
参考資料		
	藤野町と1市3町の概況	25
1.	位置と地勢	25
2.	沿革	26
3.	面積	26
4.	人口・世帯	27
5.	土地利用	30
6.	道路・交通	37
7.	産業	40
用語説明		42

第1章 まちづくりビジョン策定にあたって

1. 策定の趣旨

「“ふじの”まちづくり将来ビジョン」(以下、「ビジョン」という。)は、1市4町(相模原市、城山町、津久井町、相模湖町及び藤野町)による新市の形成に向け、相模原・津久井地域まちづくりの将来ビジョンを基本として藤野町地域のまちづくりの姿の研究を行い、合併後の藤野町地域のまちづくりの目標に向かっての施策イメージの検討を行うものです。

今後、議会の議決を経て法定の合併協議会が設置された場合は、新市建設の基本方針や根幹的な事業について定める「新市建設計画^{*1}」策定の際、活用されていくこととなります。



2. 策定の方針

ビジョンの策定にあたっては、藤野町の一般公募の住民とともに、相模原・津久井地域合併協議会まちづくりの将来ビジョン検討委員会委員及び藤野町総合計画まちづくり検討委員会委員の代表者で組織された「藤野町合併まちづくり検討委員会」(以下、「まちづくり検討委員会」という。)において、藤野町が抱える課題の認識を共有するとともに、藤野町がこれまで取り組んできたまちづくりの考え方を踏まえながら、合併後の藤野町地域の将来の夢を語り合って作成しました。

(1)対象エリア

合併後の新市における藤野町地域を対象とします。

(2)地域特性の尊重

藤野町は、首都圏近郊に位置し、水と緑に恵まれた水源地域としての役割や芸術・文化・伝統などの地域資源を活かしたまちづくりを推進しており、これらの地域特性や資源を尊重して策定しました。

(3)ビジョンの内容

本ビジョンは、合併後の藤野町地域として、特に取り組んでいくべき将来像を示したものであるため、相模原・津久井地域まちづくりの将来ビジョンに示されている目標・施策について、すべて一致しているものではありませんが、新市建設計画の策定時においては、両ビジョンが活用されていくこととなります。

第2章 まちづくりの目標

1. 新市における藤野町地域のめざす姿

新市におけるまちづくりの姿

自然に溢れた水源地の環境を活かし、文化と芸術の香りが漂い感じるまち

市民一人ひとりの声が届き、心豊かに暮らせるまち

新市の中における役割

北の玄関口として、ひと集い新しい活力を生みだし、自然の豊かさと新産業^{*3}が調和した「いやし」の場を提供します

2. まちづくりの方針

市民参画

藤野町地域固有の文化、伝統が継承され、だれもが誇りと愛着をもてる地域社会をつくるため、都市内分権^{*4}型のまちづくりとともに、市民の市政への参画機会を拡充し、地域が自立したコミュニティ社会の形成を目指します。



エコタウン事業(ヒマワリ種まき)

中分類	小分類	主な施策例
住民参加の 仕組みづくり	仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・行政を身近に感じる施策の発掘 ・住民参加の目標設定と結果の検討 ・参画の喜びを感じる方法及び参加のあり方の検討 ・住民参加、住民主導のバックアップの体制づくり …地域自治区^{*5}(旧藤野地区)への市民活動支援センターの設置 …地域の様々な活動に向けたコーディネーター(人材)の常設 …NPO^{*6}活動の支援
	都市内分権・ 7地区での まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・都市内分権の推進 …市民の市政への参画意識を高めるための都市内分権、地域自治区の充実と連携強化による環境づくり ・地域の意見をまとめる組織の強化 …行政委員連絡協議会の活性化と(仮称)「分野別部会」等の創設(町内7地区に委嘱されている行政委員の組織の活性化による、まちづくりの課題及び施策を検討する過程での参加と協働意識の向上) …藤野町地域の7地区への(仮称)「まちづくり協議会」の設置(自治会中心)と予算措置を求めて独自のまちづくりの推進 ・住民投票を含む自治基本条例^{*7}の制定

中分類	小分類	主な施策例
住民と一体となったまちづくり	参加機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・一般住民や民間団体、町内企業など地域住民参加の自立的、効率的なまちづくりの実現 ・団塊の世代^{*8}の力のまちづくりへの活用
	住民間の交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新市住民の相互交流、相互理解の推進

行財政

合併後の多様化する住民ニーズに対して住民サービスの向上を図るため、効率的・計画的な目標ある行財政運営、自治能力の向上、情報化の推進などに努めます。



中分類	小分類	主な施策例
効率的な行政運営	弾力的な運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・規制緩和による弾力的な運営の推進 ...都市とは違う津久井地域での特区申請による独自の運営の推進
	アウトソーシングの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトソーシング（外部委託）の推進 ...市の仕事の民間（NPOなど）への委託 ...古文書などのデジタル資料化のNPOへの委託 ・パート職員の活用
	行政と住民のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・町民が納得できるサービスの提供 ・パブリックコメント^{*9}制度の導入 ・ソフト施策中心のまちづくりの推進
計画的な財政運営		<ul style="list-style-type: none"> ・目標ある行財政改革の推進 ...長期的視点に立った数値目標の設定 ...財政を健全化していく運営の推進
自治能力を高める		<ul style="list-style-type: none"> ・行政職員の自覚と自己啓発の推進 ・環境が大幅に異なる地域、行政との理解度を増すための職員の支援・交流の推進
情報化の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・行政資料のデジタル化の推進 ...インターネットを通しての情報公開
対面型コミュニケーションの場づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域内のみで生活している（外に出ない高齢者）人々へのサービスの強化 ...職員による巡回サービスの実施 ・住民意見の発信 ...代議制の補完として千人集会の開催

交通

藤野駅は毎日3千人が通勤・通学などに利用する生活の拠点となっています。合併後は新市の北の玄関口として、その機能はますます重要なものとなります。一方、地勢条件が厳しいことから、道路整備が課題となっており、さらに、公共交通機関として路線バスが運行されているものの、未運行の地域もあり、通勤や買い物などは自家用車が中心となっています。そのため、身近な生活道路の整備やコミュニティバス^{*10}の充実、藤野駅までの交通アクセスの強化などに努めます。



中分類	小分類	主な施策例
総合輸送対策	身近な生活道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> 生活交通網の体系整備 通学路の総点検と歩道整備などの安全対策の実施 街路灯の設置 住民交流のための道路の利便性の確保 集落分散に対応するための交通整備 高齢者や過疎地域への対応強化
	コミュニティバスなどの充実	<ul style="list-style-type: none"> 相模原 - 藤野間などの乗り換えなしのバス路線の設置 コミュニティバスの充実 <ul style="list-style-type: none"> …昼間の空きバスの利用（町営バスなど） …マイクロバス（7地区に1台）を利用した「コミュニティバス」（タクシー的活用）の運行 福祉タクシー、福祉バスの充実
藤野駅までの交通アクセス		<ul style="list-style-type: none"> 町中心部の渋滞の解消 藤野駅までの交通の利便性の改善（特に通勤、通学時間帯）
主要道路網の整備	活動の主軸となる交通網の整備	<ul style="list-style-type: none"> 町内外の交流となる主要道路網（津久井広域道路）及び町内主要県道（県道山北藤野線・県道桐原藤野線など）の整備促進 新市の中央部に行き易くするための対策（渋滞対策）の推進

都市基盤

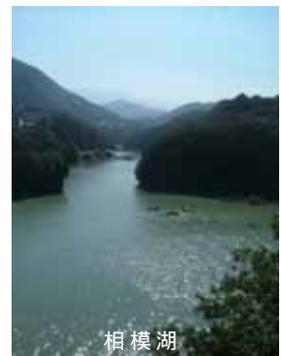
藤野町では、上下水道等の普及が進められていますが、町域は南北に長く、地勢条件が厳しいため、効率の悪い面がみられます。また、水源地域として流域全体の健全な水循環系を構築していくためには下水道や合併処理浄化槽の普及は重要な課題となっています。そのため、水源地域での投資効率に配慮した上下水道の整備など、都市基盤整備の推進を図ります。



中分類	小分類	主な施策例
都市基盤の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・大都市と自然と共合した都市づくり …双方の理解度を高めるためのサービスの充実 …山岳地域の疎外感が発生しない配慮
上水道の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水の安定供給 ・小規模水道の改善と町営（公営）化
下水道の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・水源地域を踏まえた下水道の整備の推進や合併処理浄化槽の設置の促進 …投資効率を配慮した下水道・合併処理浄化槽地域の選別の推進
情報化の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化基盤の整備推進 …各地域自治区におけるタッチ画面の情報案内板、声の情報の常設 ・各家庭におけるIT化の推進 …ケーブルを活用したテレビ（インターネット、電話網の拡大）の活用、一体感づくり
公園の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・公園の整備推進 ・市民や観光客が憩える親水公園、自然公園の設置

自然・環境

藤野町には、日本で最初の多目的ダムとしての相模湖があり、神奈川県民の貴重な水がめとなっています。また、合併により、津久井地域を含む新市の森林面積は5割を越え、首都圏近郊にありながら広大な水源地域を抱える都市として発展していくこととなります。その一方で相模湖や相模川の水質は悪く、地域資源としての再生が課題となっています。そのため、水源地域の保全・管理を都市部や他県へ働きかけていくとともに、ごみ対策・不法投棄対策を進め、あわせて循環型社会^{*11}への転換を図ります。



相模湖

中分類	小分類	主な施策例
自然環境との共生	自然を生かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加による、自然環境を生かしたまちづくりの推進 ・水源地への諸規制で拡大している都市部との格差解消 …水源地域に関する都市住民の理解を得る施策の検討
	水源地域の保全、管理	<ul style="list-style-type: none"> ・水質の保全、水量の確保 ・水源地の植生調査、理想の植物調査の実施 ・有害鳥獣被害防除対策の推進 …個体数管理や生息環境管理などの検討

中分類	小分類	主な施策例
自然環境との共生	都市部・他県への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地の持つ「緑」と「水」を媒介とした都市住民との交流推進 ・都会と田舎の交流を通じたまちづくりを目指すネットワークづくり ・山梨県、神奈川県への水源地における水質保全などの諸施策重視の働きかけ <ul style="list-style-type: none"> …山梨県との連携による桂川水系(水源)の水質向上、水量確保の推進 …水質保全と湖へ流入するごみ対策として上流他県へ理解と協力を仰ぐ ・水源地として新税(仮称「水源環境保全税^{*12}」)の必要性をアピール <ul style="list-style-type: none"> …市民が相模川水系を理解するための機会創出
	森林の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加による森林の手入れ ・植生豊かな山林へ変えることによる保水力の向上、森林保全
	相模川の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・相模川の利用方法の検討 ・「おいしい相模川の水」の復活
	里山 ^{*13} づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・里山づくりの活動推進 ・スローライフ^{*14}が送れる里山づくり <ul style="list-style-type: none"> …各地区に自然、景観を活かした里山づくり(宿泊施設)
循環型社会への転換	ごみの減量化・資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ分別収集の徹底化 ・家庭ごみの減量化に対する理解の浸透 ・リサイクルの推進 <ul style="list-style-type: none"> …リサイクル型の牧場設置(一例:生ごみを飼料にかえて牛・馬を育て、牛乳をチーズアイスクリームなどにする)
	不法投棄防止への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・湖環境、湖面水際のごみ問題対策の推進 ・河川へのポイ捨て対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> …ごみ持ち帰り運動の推進 ・住民へのごみの不法投棄対策の強化

産業

藤野町は、山間の起伏のある地形から農業生産に対する土地条件の制約が大きく、担い手の高齢化も目立っています。また、林業においても基幹的な労働力の不足、木材価格の低迷により保育間伐など森林管理が進まず、水源地域としての公益的機能の低下が懸念されます。そのため、都市圏に近接する立地条件を活かし、都市住民のニーズに対応した新産業・産物の開発やグリーンツーリズム^{*15}を推進します。



佐野川地区茶畑

中分類	小分類	主な施策例
農林業の振興	農林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業施策の促進 ...休耕地の貸し出し ・農業、林業の後継者育成 ...農業希望者への農業形態希望調査 ...農林業管理へのNPOの活用 ・地場農産物の販売ルート拡大、確保 ・有害鳥獣対策（農作物を荒らすサル、イノシシ、その他有害鳥獣対策）の推進 ・新産業・産物の開発 ...素材（地域に有るスギ、ヒノキ、タケ など）を生かした新産業の研究開発、建築材料の開発 ...天然木材の良さを活かした住宅設計の提案促進
	グリーンツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部の人をターゲットにした農業の推進 ・観光農園、里山体験、林業体験等の促進
地場産業の振興		<ul style="list-style-type: none"> ・地域、土質に合った新しい産物（名物）の研究 ・地域性のある商品開発 ...「水」の都市部への販売
地域商工業の振興		<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの核となる商店街の活性化 ・規制緩和による商業活性化 ・町内に一定規模の商業地域を設置し、出店を促し雇用の創出と活性化を図る ・自然との共生型の工業や研究・開発機関の誘致促進

観光

藤野町は、町営藤野やまなみ温泉や藤野園芸ランド、県立藤野芸術の家など、自然とふれあいながら心身の安らぎを享受できる空間が数多くあります。合併後には、相模原市街地にはない、豊かな森・水・芸術・温泉などを有する観光地としての魅力が提供できます。そのため、既存観光施設の充実・PRの推進、相模湖・相模川の活用、ハイキングコースの整備とともに、市街地にはない田舎の魅力の発信に努めます。



藤野園芸ランド



町営藤野やまなみ温泉

中分類	小分類	主な施策例
観光の振興	観光施設の充実とPR推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴をもった観光メニューの創出 ・観光施設の充実 ・自然を活かしたスポーツコンプレックス^{*16}、健康づくり施策の推進 ...一万段階プロジェクトなどの目玉づくり ・観光拠点への道路交通の改善 ・特産品を活用した観光産業の拡充 ・東京、横浜向けのPRの推進

中分類	小分類	主な施策例
観光の振興	相模湖・相模川の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・相模湖や自然を活かした観光拠点の育成 ・相模湖と相模川の水に親しめる施設、スペースづくり ・相模湖や相模川浄化による観光客の増加推進
	ハイキングコースの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を生かしたハイキングコースの整備 ...芸術コース、史跡コース、疎開画家コース、文化財コース、水源コースなど ...きれいな特色あるトイレの設置、道標の整備、統一地図の配布、NPOの活用 ・いっしょに歩くガイド(NPO)の養成 ...コースなどの管理運営はNPO ・日帰りコースの設定による集客化 ...旅行会社と提携した「温泉と芋ほり」、「陶器づくりと芋煮」など
	田舎からの発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の財産である自然(山、河、湖、清流)を生かした観光地としての活性化の推進 ・都会の人たちが求める手頃な本物の田舎、里山を味わってもらう機会の提供 ...自然に親しみ、農林業体験できる施設の整備 ・里山づくり団体との連携による、観光客が通過するだけではない仕掛け(体験など)づくり ・水稻、陸稻^{*17}の復活、ソバづくり
	川を使った交通	<ul style="list-style-type: none"> ・川を使った交通網づくり ...「相模川水上バス」の運航(観光用)

土地利用

藤野町は急峻な地形条件から、限られた土地の中での秩序ある土地利用が課題となっています。一方、合併後の相模原の市街地とのバランスのとれた土地利用も重要となります。そのため、藤野町地域の中心となる藤野駅周辺の整備により、新市における北の拠点としての機能強化を図るとともに、限られた土地の有効活用による自然と環境を重視したまちづくりに努めます。



吉野イベントパーク

中分類	小分類	主な施策例
駅周辺市街地の形成	藤野駅周辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・藤野駅前周辺整備による観光客誘致及び商業地域の形成 ...駅前区画整理や駅近辺の建ぺい率^{*18}、容積率^{*19}などの規制緩和 ・交通機関及び駅周辺商店の利用に伴う駐車場整備 ・駅周辺の交通の改善 ...駅前、国道20号線、踏切、沢井トンネルなどの整備促進 ...送迎車両による渋滞の解消、休祭日の通過車両対策の推進

中分類	小分類	主な施策例
秩序ある 土地利用	ゾーニング ^{*20} ・ 拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域分類による特色ある地域振興の推進 ... 商業地域、文教地域、観光農園地域、林業体験地域等 ・ 核となる国道 20 号と中央自動車道にかこまれた地域の開発 ・ 津久井広域道路の整備による利便性を生かした地域活用
	土地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休耕地の活用 ... 総合貸農場（小区分、仮宿泊、農業経験者にはインストラクター）への利用 ... 小中学校の「総合的な学習」の時間への活用 ... 市民の「いやしの農業」への活用 ・ 吉野イベントパークの有効利用 ... 文教地域としての活用（市の北の玄関として 1 千人規模の多目的集会施設の建設等）
快適な住環境 の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい景観づくり ... 景観を活かした庭の「花と緑の庭づくりコンクール」と開放日の推進

教育・文化

藤野町は芸術の町として知られ、ふるさと芸術村構想など首都近郊の恵まれた自然環境のなかで行われる多彩な芸術・文化の活動は、創造的で質の高いライフスタイルを藤野町地域から発信しています。そのため、合併後の市街地にはない、自然に囲まれ心豊かに暮らせる地域（文化がある地域）を目指します。



中分類	小分類	主な施策例
幼稚園教育 の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園、幼稚園の教育環境の充実、預かり時間の延長 ・ 子育て就労者のための保育園、幼稚園の一体化 ・ 高齢化、核家族化の中での高齢者と児童の融合した学習機関づくり
学校教育の 充実	教育内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競争社会に対応した教育。20～30年先を見た計画（小中一貫校など） ・ 自然と調和した特色ある教育現場づくり、施設の充実 ・ 小学校規模の適正化 ... 少人数クラスの維持と複数学級化の推進 ・ 地域ニーズに即した教育環境の充実 ・ 通学路の安全対策の確保 ... 通学用のバスの運行

中分類	小分類	主な施策例
ふるさと芸術村構想の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・職人大学など「芸術文化村」の整備 ... アイデンティティ^{*21}としてアピールする「芸術村」からより幅広い「芸術・文化村」への発展 ・アートスフィア（ふるさと芸術村メッセージ事業）の通年での活動の推進 ・芸術作品周辺の清掃・美化活動や、芸術作品ガイドの養成 ・疎開画家の「アートギャラリー」の実施
フィルムコミッション ^{*22} の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・フィルムコミッションを活用した映画テレビ特集「映画祭」の開催
生涯学習の環境づくり	生涯学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習施設の充実と支援体制の構築 ... 団塊の世代の生きがいづくり ・自然を活用した生涯学習のメッカとしての研究 ... 森林に関する施設の整備と、樹医や森林インストラクターなど養成講座の開催 ... 宿泊型、体験学習に良好な地域特性を活かした指導者の養成と体験学習の積極的な実施 ・津久井地域への特色ある学校、芸術大学などの誘致 ... 相模原の7大学による協働セミナーハウス“大学の森”の整備 ... 新市内の大学生との地域交流による活性化
	廃校舎の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校（統廃合校）跡地利活用 ... 地域のコミュニティの場として利用 ... 生涯学習教室としての利用 ... 旧菅井小学校を「一例：今西祐行^{*23}記念館」に整備。研究と交流の全国拠点としての利用
	生活文化施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・津久井地域への5番目の図書館の整備
地域文化とスポーツの振興	地域文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財、伝統行事の継承、保全 ・文化財、伝統行事、地域行事を他地域へPR ... お囃子、村歌舞伎の体験機会の提供、参加者による発表
	スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化とスポーツの振興 ・スポーツレクリエーション施設の充実 ... イベントパークへの市営スポーツの家の増設による市民交流の推進 ・「ふじのやまなみクロスカントリー駅伝競走大会」「陣馬山ハイキング」などのPRによる参加の推進

保健・医療・福祉

藤野町では、若者層の流出による人口減少とともに少子高齢化が進んでいます。そのため、合併後も高齢者が健康で生きがいを持って生活できる社会や子供を安心して生み育てることのできる社会支援の強化を図ります。



中分類	小分類	主な施策例
町民が生き生き暮らせるまちづくり	高齢者健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会に対応する健康づくり（相談・実技）元気な高齢者づくりの推進 ・高齢者、障害者福祉施設の充実 ・お年寄りと子どもたちが交流できる複合施設の整備
	保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就労、子育て家庭への支援の推進 ・保育施設の拡充 ・保育時間の延長
	人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な対応ができる地域のコーディネーター（人材）の育成
医療の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・健康相談、保健サービス体制の充実 ・救急医療施設・体制の充実 ・総合的医療機関の確立
福祉のまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援による福祉活動体系の構築 ・福祉関係の病院、施設の充実
平和と人権のまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の普及・啓発（ドメスティック・バイオレンス^{*24}〔DV〕被害者の支援や幼児虐待防止など）

安全・安心

藤野町は急峻な地形や集落が散在する地形条件から、災害時に地域が分断される危険性があります。また、道路交通量の増加に対応した交通安全対策や犯罪や事故から地域社会を守っていくことが求められています。そのため、合併後も市街地とは異なる地形特性に対応した風水害・地震対策、地域を単位とする自主的な防災体制の強化を図るとともに、子供や高齢者が安心して暮らせる安全対策の強化を図ります。



中分類	小分類	主な施策例
防災体制の充実	風水害や地震等に対する防災体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・災害があったとき陸の孤島となるのを防ぐ救急への受入れ体制づくり ・山岳地としての道路等安全対策の推進 ・水害、土砂災害予測地点の推定と事前対策の推進 …新潟県中越地震を参考にした対策の実施

中分類	小分類	主な施策例
防災体制の充実	地域防災体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風等の発生時に対する防災知識の徹底 ・ 緊急避難対応マニュアルの作成 ... 住民一人ひとりが理解できる体系図の作成 ・ 従来の防災訓練の実施と、市街地（訓練状況の把握）との連携体制づくり ・ 防災無線の有効的な活用 ... 高齢者に対する安全連絡網（緊急連絡）の確立
消防・救急体制の充実	消防体制の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防救急体制の拡充 ・ 地域消防団への支援強化 ・ 自主防災組織の町内全域への拡充 ... 自主防災組織を核とした地域防災ネットワークの構築
交通安全・地域安全対策の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全対策の推進
	地域安全対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪に対する地域としての対策の推進 ... 地域防犯ネットワークの構築 ・ 警察との連携強化、防犯灯の設置推進

補章 1 . 藤野町の地域特性や課題

ビジョンを検討するにあたって、タウン・ウォッチングなどにより、藤野町の地域特性、資源や課題などについて把握し、意見を出し合いました。

(1) 市民参画

意見の整理

- ・地域の結束力が評価されている一方、自治会の機能発揮や新住民の活力を生かすことなどが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・吉野地区に住んでいるが比較的、地域の「しぼり」がない
- ・地域の密着度が高く、住民の結束力が強い

【課題】

- ・小学校統廃合を見ても、自治会が機能をしていないところが多い
- ・新住民（半分以上）の活力が生かされていない
- ・住民による行政の解説、意見を発表する場を設け、質の高い住民の意見が醸成されなければ真の民主主義は育たない

(2) 行財政

意見の整理

- ・ソフト中心の施策への転換や町職員とのコミュニケーションのしやすさを評価されている一方、政策等に関する住民への分かりやすい説明の必要性を指摘

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・町の姿勢としてハコモノからソフトウェア中心への転換は評価できる
- ・気楽に、町職員の方と話ができる点

【課題】

- ・行政は、政策に関する総合的な見通しや経済的社会的必要性について考察を行い、住民に分かりやすく具体的に示す必要がある

(3) 交通

意見の整理

- ・JR中央本線、中央自動車道などの広域交通網へのアクセスの良さは評価されている一方、生活道路・通学路の安全性が課題（狭い・歩道がない）
- ・生活道路や公共交通網の弱さなど、集落が分散している地域特性等を背景に、

交通弱者の日常生活への不便さが課題

- ・ 藤野駅前は、道路（歩道を含めた）・駐車場の確保、沢井方面への立体交差、トンネルの拡幅、三連続信号の管理等が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・ JR中央線、中央自動車道など
- ・ 鉄道を利用しなくても、車を使えば、八王子、相模原、山梨へ自由に移動できること
- ・ 大都会に近く、藤野地域に入ると一変して田舎になる。現在求められている癒しのエリアとして最適。鉄道、国道、高速とアクセスは良好。居住するには最高の場所

< 藤野駅 >

- ・ 構内にある「名もない文庫」（誰にでも貸す）は藤野らしい
- ・ 建物、外観は「藤野らしくて良い」という都市の人たちもいる。藤野らしさを感じた

【課題】

- ・ 生活道路の充実（歩道設置）、通学路を中心とした道路整備（歩道設置）
- ・ 道路の整備（交通・防犯両面）と町内の交通アクセス確保（高齢化）
- ・ 公共交通網の充実
- ・ 教育や医療、福祉、生活交通問題を解決し、若者が安心して住める町づくりが必要
- ・ 車を運転できない世代は外に出にくい(山坂あり)
- ・ 集落が分散し生活交通網が完備されていないことから、交通弱者は日常生活に不便を伴う。手軽な手段としての自転車も走れるところが殆どない
- ・ 一般道路、通学道路とも整備改善が必要である所が多く感じた（同県道などに）
- ・ 道路、交通の安全面が良くない
- ・ 県道町道は劣悪である。特に児童生徒の通学路、通学手段の改善を最優先にする必要がある
- ・ 町営やまなみ温泉、県立藤野芸術の家、県立陣馬相模湖自然公園など自慢できるところに共通する課題は交通アクセスである。生活交通対策、道路整備等を通じて素晴らしい資源を生かす努力をしたい

< 和田・鎌沢地区 >

- ・ 生活交通対策の徹底。生活道路、通学路が狭い。通学路の安全対策（歩道が無い）
- ・ 公共交通体系の確立促進
- ・ 県道町道の改修、歩道の設置
- ・ 車中、道案内板等が少ない
- ・ 沢井トンネル拡幅、改修

< 沢井、佐野川地区 >

- ・道路が狭く不安全（交通・防犯両面）であり対策が必要

< 藤野駅周辺 >

- ・3年前にできたバス停留所は貴重なスペース、もっと活用できるのではないかと
- ・全般的にまとまりとかが無く混雑感が強い。道路（歩道を含めた）駐車場の確保、沢井方面への立体交差、トンネル拡幅、三連続信号の管理等総合的な見直が必要

< 町中心地 >

- ・国道拡幅、役場へのアクセス、踏切、トンネル、駅から国道・役場へのアクセス、商店街の整備活性化等、都市基盤の整備が急務で住民の意識の盛り上げと意思統一が必要。中央自動車道インターチェンジに近く、JR中央本線の駅、国道20号、津久井広域道路が湖の南からアクセスするなど、まちづくりの骨格、基軸を活かせる極めて恵まれた立地環境がある

(4) 都市基盤

意見の整理

- ・水源地域としての河川、水質の保全や下水道整備等の必要性の他、公園や携帯電話などの日常生活の不便さが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・排気ガスや騒音等公害問題は少ないが逆に日常生活の不便を実感する

【課題】

- ・水源としての河川、水質の保全（下水道の整備）
- ・緑は多いが、散歩できるような都市公園がない

< 和田・鎌沢地区 >

- ・携帯電話電波が届かない

(5) 自然・環境

意見の整理

- ・豊かな自然環境や川・清流・相模湖等の水源地域としてのアイデンティティ、清い空気、景観などが藤野町の良い特徴として評価
- ・水源地域の資源となっている相模湖や河川の水質の悪化、さらに水源地域を保全するための人材・情報の不足が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・自然環境がよい。環境が良い、自然に恵まれている
- ・地域ごとに、自然環境を大切にしていることは素晴らしいことである
- ・何といたっても自然豊か。季節のにおいを肌で感じることができる

- ・豊かな自然の中で心も大らか
- ・月並みな表現で緑や豊かな自然に恵まれていることであるが、住んでいる人はあまり実感が湧いてこない
- ・都心からの1時間の距離に位置し、緑と水は藤野の財産。効果的活用をする
- ・神奈川県の水源地としての相模湖を有していること
- ・水・清い空気
- ・水源地としてアイデンティティを発揮することができる
- ・大都会に近く、藤野地域に入ると一変して田舎になる。現在求められている癒しのエリアとして最適。鉄道、国道、高速とアクセスは良好。居住するには最高の場所。(再掲)

< 和田・鎌沢地区 >

- ・自然を生かした地域振興をしたい
- ・清流は藤野の象徴
- ・空気が澄んでいる(美味)と感じた

< 沢井、佐野川地区 >

- ・小溪谷的な自然が多く景観が良い。山、住居、道路が川面に近く、川水を利用した活性化が望ましい

【課題】

- ・相模湖のアオコ発生(夏は悪臭がひどく、水道水までアオコの臭いがする)
- ・湖、川の悪臭とゴミの散乱
- ・水源地は人不足、人材不足、情報不足でお手上げの状態である

< 和田・鎌沢地区 >

- ・水質保全対策
- ・沢井川の流れた、落ちついた地域で豊かな観光資源、景観、水辺、鉱泉宿等、県道拡幅や歩道、遊歩道設置、修景対策、空き地にモミジ、桜、梅、松等の植樹。沢井川の清流化、川辺の美化。子供達の安全対策、良好な新住宅地の確保等を進め、素晴らしい地域となる

(6) 産業

意見の整理

- ・町内の産業、就業先の少なさが大きな課題となっていることに加え、就業者の流出による地域のベッタウン化が地元意識の欠如を招いている
- ・商業施設は他町に頼っており、藤野駅前の商店街活性化が課題
- ・農林業の後継者不足、森林の荒廃や休耕地が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

< 和田・鎌沢地区 >

- ・斜面の茶畑がきれいである

【課題】

- ・さしたる産業もなく、経済に貧しく、行政効率も悪い
- ・企業や会社など働く場が少ない。雇用対策の問題のとりくみが必要
- ・JR藤野駅、高速道路のインターを有する藤野町であるが、住民生活を支える一定規模の工業や商業、農業の産業基盤が極めて貧弱なことから若年層を中心とした現役労働力は周辺都市へ流出し、高齢化が進展し町域全体が過疎化に向かっている
- ・地域に雇用能力が無く、ベッドタウン化しており、地元意識に欠け、町に対する無関心さが目立ちまとまりが無い
- ・商業の活性化
- ・ショッピングは町外に行かなければいけない（書籍など）
- ・商店が少なく。日用品、食料購入等に不便
- ・設備が不十分（図書館、病院、スーパーマーケットなど）
- ・他町に頼っている部分が多々ある（病院、火葬場、買い物）
- ・農林業の後継者不足

< 沢井、佐野川地区 >

- ・森林のメンテナンスが悪く荒廃している。また休耕地が多く活用が必要

< 藤野駅 >

- ・駅前整備をして商店街を誘致して活性化を図る、商店街の活性化が必要

< 町中心地 >

- ・国道拡幅、役場へのアクセス、踏切、トンネル、駅から国道、役場へのアクセス、商店街の整備活性化等、都市基盤の整備が急務で住民の意識の盛り上げと意思統一が必要。（再掲）

(7) 観光

意見の整理

- ・陣馬山麓は、ハイキングコースの案内や来訪者を呼び込む施設が必要
- ・吉野イベントパークは、町内の貴重な広い空間であるものの、施設内容の問題や景観が生かされていないことなど、施設の有効活用が課題
- ・芸術の家は、芸術文化の拠点として良い印象を持たれている一方、民間委託への移行に伴う地元配慮の低下への懸念等が課題
- ・藤野やまなみ温泉は、町内の自慢できる施設としてあげられている一方、藤野産の土産が少ないなど特産品販売等に関する課題やアクセスが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

< 吉野イベントパーク >

- ・場所、立地条件は、すばらしい。広さとして日あたりも良くながめも良く、イ

ベント会場として有効利用できればよい

- ・地域資源として活用、イベントパークは貴重なスペースで大切に活用したい

< 芸術の家 >

- ・環境は素晴らしい
- ・県の最北地域への配慮が感じられ、1市4町の合併ができれば、都市の貴重な施設となり周辺を含めて更に発展する。周辺地域の道路整備と修景対策を進め素晴らしい文化芸術と附随する地域産業を育成したい

< 藤野やまなみ温泉 >

- ・やまなみ温泉は環境も整備も自慢できる

【課題】

< 陣馬山麓 >

- ・甲州裏街道の史跡の標識、ハイキングコースの案内などがあれば良い
- ・陣馬を含めたハイキングコース等に客を足止めさせる施設と目玉が必要
- ・隣町のゴミ焼却場と、し尿処理場からでる水の水質が心配

< 吉野イベントパーク >

- ・現況の利用方法、内容等に問題あり。当初の計画段階の通り、多目的広場として使用出来るよう工夫が必要
- ・広い土地と、素晴らしい景観が活かされていない
- ・吉野の人たちが、パーク利用計画を早く出してほしい
- ・マレットゴルフ場は、多くの人が利用するものではない
- ・イベントパークは町内一の広いスペースである。別な利用方法で活性化すべきである。教育環境としては最適である。学校用地に利用してはどうか
- ・イベントパークは景観も良く好位置であるが余りにも放置的

< 芸術の家 >

- ・駐車場が狭い
- ・平成18年4月からの「民間委託」が心配(値上げ、地元配慮がなくなる)。町、また地元として今後の利用度合いが懸念される
- ・県立芸術の家もいいなと思うところ、多くの町民が利用できる対策を望む
- ・交通アクセスに難点があり改善が必要
- ・体験学習の拠点としての位置付けをし、発信基地としてネットワークづくりを考える
- ・芸術の家は地元の活用を推進する必要有り(アクセスも含め)

< 藤野やまなみ温泉 >

- ・野菜売り場が「困いこまれて」いるのは残念
- ・みやげ品で藤野産は少ない。木工品、冊子なども販売してもらえればよい
- ・シャワーのでの時間が短い
- ・交通アクセスに難点があり改善が必要

(8)土地利用

意見の整理

- ・集落が分散していることによる地域活性化への弊害や斜面が多い地形的条件などが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

<吉野地区>

- ・津久井広域道路の勝瀬橋新設から国道 20 号へのアクセスあり、中央自動車道インターチェンジも近く新しい観光展開、事業所、新住宅の増加が期待でき、地域は活性化される

【課題】

- ・斜面が多すぎる
- ・人口の割に広く、分散しすぎて何事にも活性化に欠ける
- ・分散地域、高齢化に対応した対策が必要

(9)教育・文化

意見の整理

- ・教育に関する事項として、小学校給食施設に対する評価を得ている一方、学校の配置校区、図書館・カルチャースクールなど生涯学習に関する施設、プログラムの脆弱さが課題
- ・伝統的行事、芸術、文化に対する良い評価を得ている一方、町中に配置された芸術作品の管理不足が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・各地区で伝統的・行事・文化がさかんに実施されていること
 - ・芸術というよりアート（美術）の町のカラーがでている
 - ・昔の宿場町が町内にあった参勤交代の大名宿として本陣もあった
- ##### <葛原神社周辺>
- ・歴史的、芸術による町おこしについて、一般町民、多くの人が、画家との交流の場を広げていったら振興が図れて良い
 - ・素晴らしい景観
 - ・「芸術の道」の“交差点”になるのでは。（活用しきれていない感じ）
 - ・月 1 回、名倉小の子どもたちが彫刻周辺を清掃しているのは良い
 - ・歴史を感じる
 - ・地域の活性化に使ってコミュニティの和をひろげるには良い
 - ・四季を通じた事業など（外部評価につなげる）
 - ・地域資源として活用

< 名倉地区 >

- ・展望に恵まれ、歴史、伝統文化、芸術を感じる地域である

< 南小学校給食施設 >

- ・町内はじめての施設であり、大変良いと思った。今後出来る限り、早期には全校実施されたら良い。南小は環境も整備も自慢できる
- ・やはり自校方式にまさるものはない
- ・給食センターは非常に良い。特に地元産の食材を活用している点は最良
- ・色々な面で附帯効果大きい

【課題】

- ・小学校区に問題
- ・小学校統廃合条例が制定され進行中であるが多くの問題を抱えたままである。町の地勢、道路網等を考慮し、学校の配置校区などの再検討をすべきである。H17年には名倉小が、H20年には小淵・吉野小が現在の日連小へ統合すると言うが環境や用地スペース等を考えれば適地とは言えない
- ・教育には相当厳しい負担を感じるが守らねばならない
- ・教育や医療、福祉、生活交通問題を解決し、若者が安心して住める町づくりが必要（再掲）
- ・高校以上の学校が無いのためか最も活力のある若者を見るのが少なくエネルギーを感じない
- ・学校（特に県立高校）に通うのに非常に不便、交通費が高額
- ・カルチャーセンター、生涯学習も町内には良いプログラムがない
- ・図書館も上野原町、相模原市、八王子市へ行く
- ・設備が不十分（図書館、病院、スーパーマーケットなど）（再掲）

< 和田・鎌沢地区 >

- ・通学路としては危険(車で通行中、歩いている人1人もおらず)

< 葛原神社周辺 >

- ・芸術作品の設置が町民生活にどれ程寄与するのか疑問
- ・自然を散策するには申し分ないが生活するための道路や施策がなく快適とは言えない
- ・通学には危険
- ・芸術作品が多くあり芸術の町を象徴する地域ではあるが手入れがゆきとどいていない。作品の補修、手入れは誰が行っているのか

< 名倉地区 >

- ・芸術作品が多くあり芸術の町を象徴する地域ではあるが手入れがゆきとどいていない
- ・川面から遠く高台に位置し、広い空で開放的な景観が良い。芸術作品が数有るがそのメンテナンスは悪い。PRを含めて見直しが必要。日連小学校附近は特に道路が悪く不安全。統合も考慮して大改善が必要。

- ・通学には危険
- < 南小学校給食施設 >
- ・南小は交通アクセスに難点があり改善が必要

(10) 保健・医療・福祉

意見の整理

- ・町内の医療施設の不足や子育て環境に対する家庭の役割の重要性を指摘

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

-

【課題】

- ・教育や医療、福祉、生活交通問題を解決し、若者が安心して住める町づくりが必要。(再掲)
- ・医療設備が充実していない。身近に医療機関が少ない
- ・総合病院があれば良い(相模湖町との共用でも)
- ・設備が不十分(図書館、病院、スーパーマーケットなど)(再掲)
- ・他町に頼っている部分が多々ある(病院、火葬場、買い物)(再掲)
- ・子どもを育てるためには家族の全面的協力が必要(移動手段、弁当、学童保育他)

若い世代の藤野ばなれ。離れないで藤野に住み続ける。子育て世代に何故ここに住み続けるのかを聞いてみるのも必要

(11) 安全・安心

意見の整理

- ・町内では、人と人とのふれあいが密接であり、地域の見守りがあることを評価

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・人と人のふれあい(あいさつ運動実施、子供、大人とも)
- ・地域交流が密接(隣組) 地域の見守りがある
- ・住民に余裕があり生活がのんびりしている

【課題】

- ・元ホテルサンヒルズは「おばけやしき」になっていき若者(他町、他県から)が夜おとずれ治安の面で心配があり、見た目も印象悪い

1 市 3 町タウン・ウォッチング感想

ビジョンを検討するにあたって、1 市 3 町のタウン・ウォッチングを実施しました。以下に委員の視察の感想を示します。

1 市 3 町を視察した感想

1. 相模湖町について
人口規模は藤野町とあまりかわらない。(自然環境面とも)
高齢化比率が 4.5%も差がある(藤野町が高い)
 2. 津久井・城山町について
道路網の完備が良い。水源供給地となっている。津久井 4 町に
良い公共施設がある(津久井町にある)
 3. 相模原市について
人口 60 万人以上規模の大きさより、数多く感じた。
 1. 市道が平坦で自転車利用者が多く便利である
 1. 思っていたより緑が多い
 1. 大学の数が多い
 1. 各施設の充実・スケールの大きさが目立った。
特に健康・医療・福祉・センター(南清掃工場)
-
- ・相模原市の施設は素晴らしいが、市民が最大限利用しているという印象はない
 - ・相模原市の都市公園は良く管理されているが「大自然」を活かした森林公園はないという印象
 - ・「へそ」がない、ということは、ネットワーク的、分権的、多様な街づくりが可能(今までにない発展の可能性)
-
- ・今回相模原を中心にウォッチングを致しましたが、我が藤野町と比較し市民サービスへのソフトの部分である施策や取り組みの目標、実施状況、公共施設への配慮の点で雲泥の格差を実感した。
 - ・藤野は小規模人口と分散集落で行政効率性は 1 市 3 町に比べ最悪の町ですが合併によるスケールメリットと町民の参画による町づくりを通じて課題の解決に向うしか方法はないのでは。
-
- ・設備のすばらしさにただただ圧倒されるだけでした。
規模の違いには愕然とするものがあります。
-
- ・様々な施設等を視察したが、その全てが大規模であり、素晴らしく又今後の計画にも大型都市の底力を見せつけられた。非常に広い都市であり現状でも都市内分権の必要性を感じた。16 号線、および通勤時の道路渋滞は大きな課題であり、合併した場合、藤野から中央への交通手段改善は重点課題。しかし現相模原市には無いものが藤野町にはある(田舎)。

補章 2 . 藤野町合併まちづくり検討委員会の検討経緯

第1回検討委員会 平成16年12月3日(金)

内 容 正副委員長の選出
検討にあたっての基本的な考え方
検討スケジュール
1市3町と藤野町の現況
藤野町総合計画について



第2回検討委員会 平成16年12月6日(月)

内 容 藤野町タウン・ウォッチング
委員勉強会
- 都市内分権について
- 1市3町のビジョンについて
〔ワーク：まちづくりの施策を考える〕



第3回検討委員会 平成16年12月10日(金)

内 容 1市3町タウン・ウォッチング
〔ワーク：まちづくりの施策を考える〕



第4回検討委員会 平成16年12月16日(木)

内 容 藤野町総合計画について2
ビジョンの構成と作業主体
まちづくりの課題の確認
まちづくりの方向性



第5回検討委員会 平成16年12月23日(木)

内 容 新市における藤野町としての在り方
まちづくりの目標



第6回検討委員会 平成17年1月6日(木)

内 容 新市における藤野町地域のめざす姿
庁内照会結果の検討
まちづくりの目標



補章 3 . 藤野町合併まちづくり検討委員会 委員名簿

区 分	氏 名	備 考
公募選出委員	佐々木 宣彰	委員長
	山崎 正夫	副委員長
	檜 喜代志	
	大房 登	
	山崎 泰文	
	山口 景	
藤野町合併 まちづくり検討委員会 規程第4条第4項出席者	矢越 孝裕	相模原・津久井地域まちづくりの 将来ビジョン検討委員会
	中里 州克	
	小嶋 重春	
	永井 充	
	石井 靖	藤野町総合計画まちづくり検討委員会
アドバイザー	高見沢 実	横浜国立大学大学院工学研究院助教授
	牛山 久仁彦	明治大学政治経済学部助教授

(順不同、敬称略)

参 考 資 料

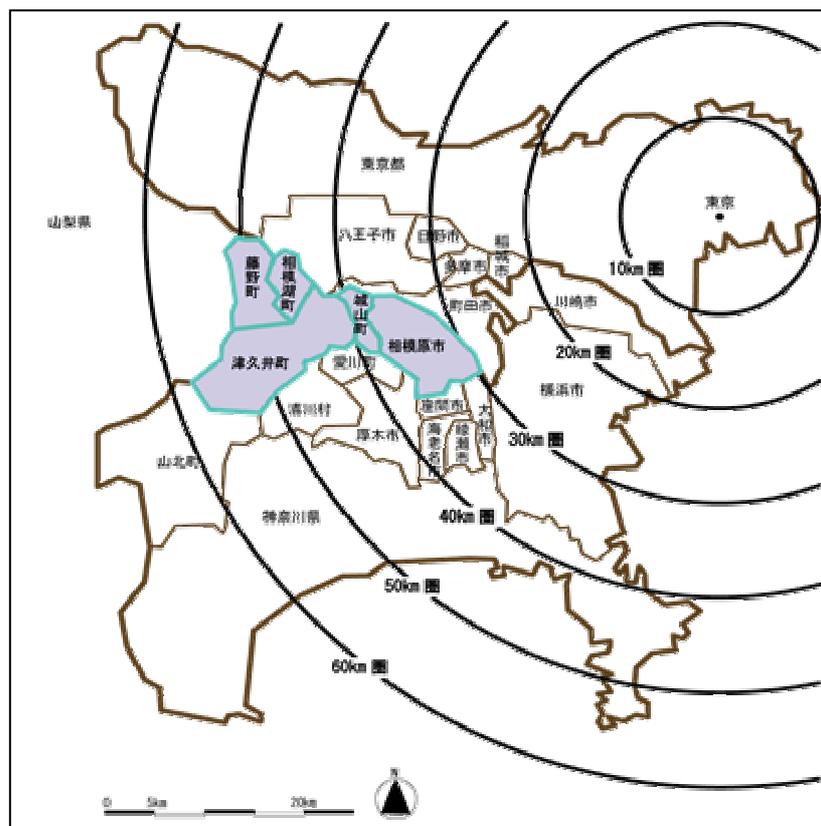
藤野町と1市3町の概況	25
1. 位置と地勢	25
2. 沿革	26
3. 面積	26
4. 人口・世帯	27
5. 土地利用	30
6. 道路・交通	37
7. 産業	40

1. 位置と地勢

藤野町は、神奈川県最北西端に位置し、東部は相模湖町、北部は東京都八王子市及び檜原村、西部は山梨県上野原町、秋山村及び道志村と、南部は道志川を境に津久井町の1市3町3村に接している。

地形的には、南北に長い長方形を成しており、北部には、町内最高峰の連行峰（1,020m）をはじめ、生藤山（990m）、陣馬山（855m）など比較的急峻な山々が連なり、東京都と山梨県との境になっている。南部には、石老山、石砂山、峰山などの500～600mのなだらかな山々が連なり、津久井町との境に道志川が流れている。中央部には、東西に相模川が流れ、その両岸にやや開けた河岸段丘があり、住居が集中している。左岸には国道20号とJR中央本線、中央自動車道が東西に走り、まちの骨格を成している。

1市4町の位置



2 . 沿革

藤野町の現在までに至る沿革は、明治22年の市制町村制施行に伴う「明治の大合併」に始まり、昭和28年の町村合併促進法施行、昭和31年の新市町村建設促進法施行に伴う「昭和の大合併」を経て、以下のとおりとなっている。

年 月	沿 革
明治22年 4月	吉野駅、小淵村、沢井村、日連村、名倉村、牧野村、佐野川村が誕生
大正 2年 4月	吉野駅が町制を施行し、吉野町が誕生
昭和29年 7月	吉野町、小淵村、沢井村が合併し、吉野町が誕生
昭和30年 7月	1町4村（吉野町、日連村、名倉村、牧野村、佐野川村）が合併し、藤野町が誕生

資料：藤野町史

3 . 面積

藤野町の間積は、64.91km²である。

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町及び藤野町の1市4町での全体の面積は、328.84km²となり、神奈川県の間積(2,415.68km²)の約13.6%を占めている。

1市4町の間積

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	1市4町 合計	神奈川県
面積(km ²)	90.40	19.90	122.04	31.59	64.91	328.84	2,415.68
面積比(%)	27.5	6.1	37.1	9.6	19.7	100.0	-

資料：県勢要覧〔平成15年度版〕神奈川県企画部統計課など

4 . 人口・世帯

(1) 人口動向

藤野町では、相模原市、城山町、津久井町及び相模湖町の1市3町と同様に昭和55年から平成12年までの間は人口が伸びており、1.2倍に増えている。この間、相模原市は、昭和55年から平成12年で439,300人から605,561人と約15万人増えている。

平成7年と平成12年で比較すると、津久井町、相模湖町及び藤野町は人口が減少しているが、相模原市は、6%台の伸び率となっている。

1市4町の人口動向

都市名	国勢調査人口					H12/S55
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	
相模原市	439,300	482,778	531,542	570,597	605,561	1.4
伸び率	-	9.9%	10.1%	7.3%	6.1%	
城山町	15,732	19,248	21,535	22,732	23,036	1.5
伸び率	-	22.3%	11.9%	5.6%	1.3%	
津久井町	20,746	24,460	28,038	30,448	30,345	1.5
伸び率	-	17.9%	14.6%	8.6%	-0.3%	
相模湖町	9,007	9,845	10,592	11,263	10,896	1.2
伸び率	-	9.3%	7.6%	6.3%	-3.3%	
藤野町	9,470	10,186	10,729	11,473	11,312	1.2
伸び率	-	7.6%	5.3%	6.9%	-1.4%	

資料：国勢調査

(2) 世帯数の推移

平成7年と平成12年の世帯数を比較すると、藤野町は2.8%伸びている。相模原市の伸び率は12.1%であり、1市4町において、最も高い結果となっている。

なお、人口の減少が最も大きかった相模湖町では、世帯数も減少している。

1市4町の世帯数の推移

都市名	国勢調査世帯(世帯)		H12/H7 伸び率(%)
	平成7年	平成12年	
相模原市	212,209	237,936	12.1%
城山町	7,208	7,663	6.3%
津久井町	9,046	9,492	4.9%
相模湖町	3,793	3,712	-2.1%
藤野町	3,300	3,392	2.8%

資料：国勢調査

(3) 年齢別人口構成

藤野町と1市3町を比較すると、藤野町の15～24歳及び25～64歳人口の割合は、最も低く、65歳以上人口の割合は、最も高い結果となっている。

なお、相模原市の65歳以上人口の割合は、11.1%と最も低い。

1市4町の年齢別人口構成

都市名	平成12年 国勢調査 年齢別人口(人)				平成12年 国勢調査 年齢別人口割合			
	0～14歳	15～24歳	25～64歳	65歳以上	0～14歳	15～24歳	25～64歳	65歳以上
相模原市	89,531	86,783	362,052	67,174	14.8%	14.3%	59.8%	11.1%
城山町	3,193	3,653	13,507	2,683	13.9%	15.9%	58.6%	11.6%
津久井町	4,669	4,269	17,243	4,150	15.4%	14.1%	56.8%	13.7%
相模湖町	1,513	1,722	5,909	1,750	13.9%	15.8%	54.2%	16.1%
藤野町	1,586	1,413	6,043	2,257	14.0%	12.5%	53.5%	20.0%

資料：国勢調査

(4) 人口密度

次頁の図は、都市計画基礎調査（H12）における地区（中ゾーン）別の人口密度である。

藤野町の人口密度を見ると、中央は89.8人/ha、佐野川は59.7人/ha、牧野は62.6人/haとなっている。

1市4町では、藤野町及び津久井町西部から相模原市東部にかけて、人口密度が段階的に大きくなっている。

5 . 土地利用

(1) 土地利用の法指定状況

都市地域

藤野町は、相模湖町とともに相模湖都市計画区域（藤野町の一部及び相模湖町全域）に指定されており、1市4町においては、相模原都市計画区域（相模原市全域及び城山町全域）と津久井都市計画区域（津久井町の一部）、相模湖都市計画区域の3区域がある。

線引きは、無秩序な市街化を防止し計画的な市街化を図るため、都市計画区域を区分するものであり、計画的な市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」に区分される。非線引きは、この区分をしないことをいう。

相模原都市計画区域は線引きを行っているが、相模湖都市計画区域は、津久井都市計画区域とともに非線引きとなっており、土地利用に関する規制や誘導方策が弱い。

一方、建物の用途や規模を定める「用途地域」の指定状況は、次頁中段表のようになる。1市4町にてそれぞれ異なった傾向が伺える。用途地域を住居系・商業系・工業系の3つの区分に分けた次頁下段表を見ると、藤野町は住居系のみ指定となっており、1市3町においても住居系の指定が最も多い面積を占める。その一方で、相模原市では城山町及び津久井町と比べて工業系の比率が高い傾向がうかがえる。

都市地域の面積：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	1市4町合計	神奈川県計
	相模原都市計画区域		津久井都市計画区域	相模湖都市計画区域			
都市計画区域の割合	全域	全域	一部 (41.7%)	全域	一部 (37.4%)	-	-
線引き・非線引きの別	線引き	線引き	非線引き	非線引き	非線引き	-	-
都市計画区域	9,040.0	1,990.0	5,090.0	3,159.0	2,428.0	21,707.0	199,641.0
線引き	9,040.0	1,990.0	0.0	0.0	0.0	11,030.0 (50.8%)	172,725.0 (86.5%)
市街化区域	6,470.0 (71.6%)	270.0 (13.6%)	0.0	0.0	0.0	6,740.0 (31.0%)	93,175.0 (46.7%)
市街化調整区域	2,570.0 (28.4%)	1,720.0 (86.4%)	0.0	0.0	0.0	4,290.0 (19.8%)	79,555.0 (39.9%)
非線引き	0.0	0.0	5,090.0	3,159.0	2,428.0	10,677.0 (49.2%)	26,916.0 (13.5%)
用途地域	6,253.0 (69.2%)	269.7 (13.6%)	295.0 (5.8%)	223.1 (7.1%)	215.0 (8.9%)	7,256.8 (33.4%)	95,929.9 (48.1%)

資料：神奈川県都市整備統計年報2003など（パーセンテージは1市4町の都市計画区域面積に占める割合）

用途地域の面積と割合：単位（ha）

区 分	相模原市		城山町		津久井町		相模湖町		藤野町		1市4町合計		神奈川県計	
第1種低層 住居専用地域	1,544.0	24.7%	138.0	51.2%	129.0	43.7%	33.0	14.8%	0.0	0.0%	1,844.0	25.4%	29,307.1	30.6%
第2種低層 住居専用地域	12.0	0.2%	6.0	2.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	18.0	0.2%	764.5	0.8%
第1種中高層 住居専用地域	1,254.0	20.1%	30.0	11.1%	76.0	25.8%	78.0	35.0%	137.0	63.7%	1,576.0	21.7%	15,227.0	15.9%
第2種中高層 住居専用地域	294.0	4.7%	5.9	2.2%	0.0	0.0%	8.9	4.0%	0.0	0.0%	308.8	4.3%	2,912.1	3.0%
第1種 住居地域	1,086.0	17.4%	43.0	15.9%	39.0	13.2%	82.0	36.8%	78.0	36.3%	1,328.0	18.3%	16,519.0	17.2%
第2種 住居地域	396.0	6.3%	26.0	9.6%	10.0	3.4%	8.2	3.7%	0.0	0.0%	440.2	6.1%	3,047.6	3.2%
準住居地域	77.0	1.2%	4.2	1.6%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	81.2	1.2%	2,570.3	2.7%
近隣商業地域	263.0	4.2%	7.4	2.7%	21.0	7.1%	5.0	2.2%	0.0	0.0%	296.4	4.1%	3,782.1	3.9%
商業地域	181.0	2.9%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.0	3.6%	0.0	0.0%	189.0	2.6%	3,940.9	4.1%
準工業地域	424.0	6.8%	0.0	0.0%	20.0	6.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	444.0	6.1%	6,267.0	6.5%
工業地域	301.0	4.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	301.0	4.1%	4,895.0	5.1%
工業専用地域	421.0	6.7%	9.2	3.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	430.2	5.9%	6,697.3	7.0%
合 計	6,253.0	100.0%	269.7	100.0%	295.0	100.0%	223.1	100.0%	215.0	100.0%	7,256.8	100.0%	95,929.9	100.0%

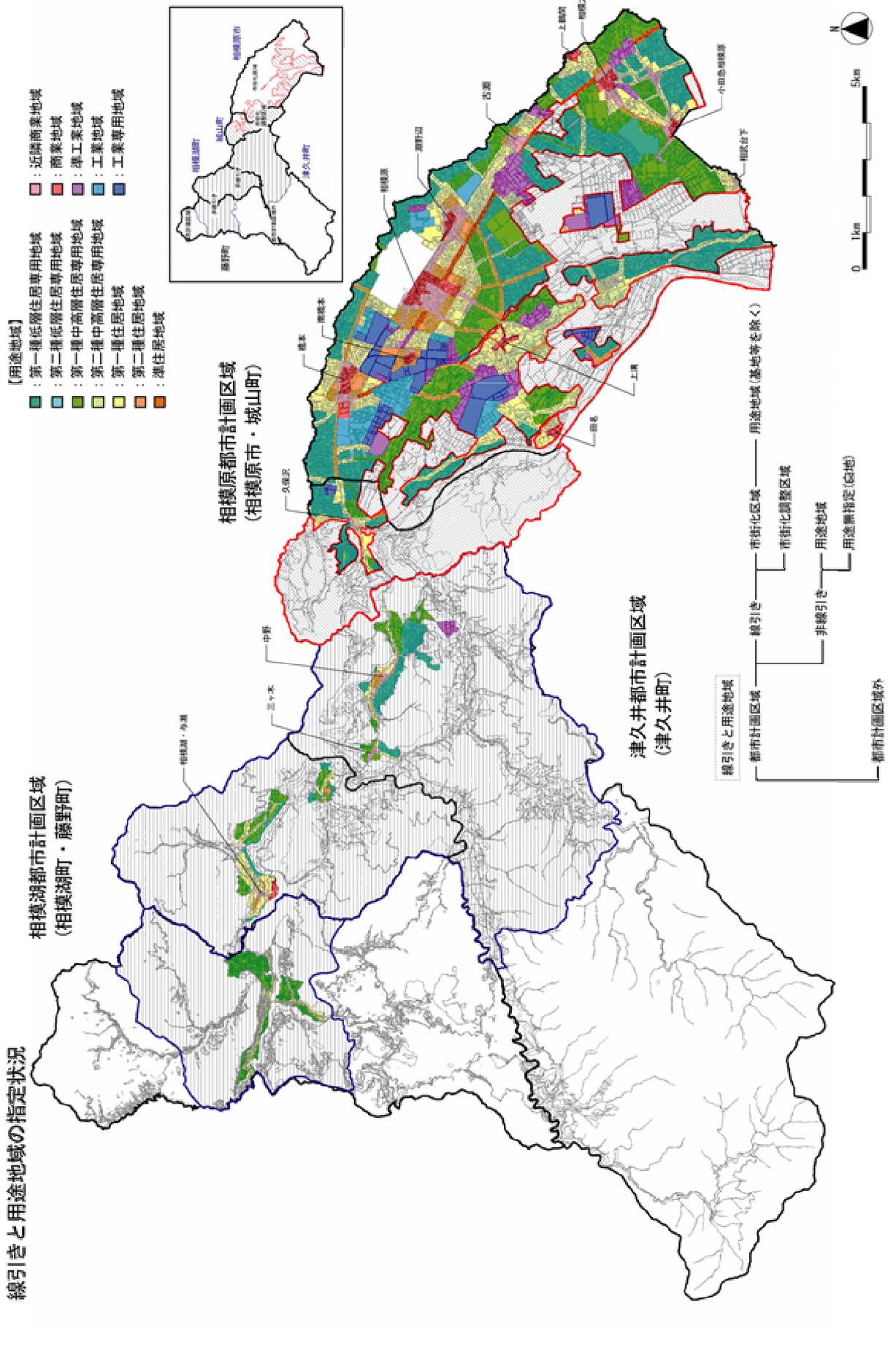
資料：神奈川県都市整備統計年報2003（パーセンテージは用途地域合計面積に占める割合）

用途地域の3区分の割合

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	1市4町合計	神奈川県計
住居系	74.6%	94.0%	86.1%	94.2%	100.0%	77.1%	73.4%
商業系	7.1%	2.7%	7.1%	5.8%	0.0%	6.7%	8.0%
工業系	18.3%	3.4%	6.8%	0.0%	0.0%	16.2%	18.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：神奈川県都市整備統計年報2003（パーセンテージは用途地域合計面積に占める割合）

線引きと用途地域の指定状況



農業地域

藤野町における農業振興地域の面積は、2,822haであり、1市4町において、最も大きい面積を占めている。さらに、各市町の全面積あたりの割合においても、藤野町は43.5%と最も多く、相模原市が8.1%と最も低い。1市4町合計に占める割合を見ると、全体の平均は20.9%であり、県平均の21.1%とほぼ並ぶ。

土地利用の制限が厳しい農用区域の面積を見ると、相模原市が321haと最も大きい面積を有している。1市4町合計に占める割合で見ると、全体の平均で2.5%であり、県平均の4.8%より小さい。各市町の全面積あたりの割合をみると、城山町が4.9%で最も多く、藤野町と津久井町が1.8%と最も少ない結果となった。

森林地域

森林に関わる主な法指定地域としては、森林法（及び森林法が規定する地域森林計画）に基づく、国有林、地域森林計画対象民有林、保安林がある。国有林及び地域森林計画対象民有林は指定が重複しないが、保安林はそれらに重複して指定されることがある。

国有林と地域森林計画対象民有林を足し合わせた面積を見ると、藤野町では5,136ha（79.1%）であり、津久井町が10,020ha（82.1%）と最も多く、相模原市が342ha（3.8%）と最も少ない。1市4町全体では、18,810haで、面積の57.1%を占める。これは、県平均の37.6%と比べて大きい割合となっている。

一方で、より土地利用の規制が強くなる保安林の指定を受けている地域の面積は、1市4町合計で見ると13,075ha（39.8%）であり、県平均の20.9%より割合が大きい。特に、津久井町が9,565ha（78.4%）と跳びぬけて大きい面積を有している。

自然公園地域

1市4町における自然公園地域としては、津久井町の南部に広がる丹沢大山国定公園がある。国定公園においては、土地利用の規制の段階に応じて弱い順から第1種～3種地区、特別保護地区が設定され、運用されている。

藤野町は、相模湖町とともに県立陣馬相模湖自然公園があり、1市4町においては、津久井町の県立丹沢大山自然公園と合わせて2公園がある。県立自然公園には、土地利用の厳しい特別地域と比較的制限がゆるい普通地域があり、2公園とも特別地域に設定されている区域がある。

自然保全地域

藤野町では、11箇所（日連、名倉、小淵、吉野、沢井、佐野川、藤野上、牧馬、綱子、奥牧野、石砂山の計600.0ha）に自然環境保全地域がある。また、城山町では3箇所（城山・城山湖・小倉山の計226.2ha）、津久井町では5箇所（茨菰山、志田山、仙洞寺山、城山、青野原の計501.5ha）、相模湖町では1箇所（寸沢嵐の12.8ha）がある。さらに、藤野町では、土地利用制限がより厳しい特別地区が1箇所（石砂山の16.6ha）ある。

農業地域の面積：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	1市4町合計	神奈川県計
農業振興地域	731(8.1%)	615(30.9%)	2,000(16.4%)	719(22.8%)	2,822(43.5%)	6,887(20.9%)	50,893(21.1%)
農用地区域	321(3.6%)	97(4.9%)	217(1.8%)	69(2.2%)	119(1.8%)	823(2.5%)	11,563(4.8%)

（カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成16年3月）

森林地域：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	1市4町合計	神奈川県計
（国有林＋地域森林計画対象民有林）	342(3.8%)	934(46.9%)	10,020(82.1%)	2,350(74.4%)	5,136(79.1%)	18,782(57.1%)	90,913(37.6%)
国有林	35(0.4%)	132(6.6%)	704(5.8%)	88(2.8%)	54(0.8%)	1,013(3.1%)	10,861(4.5%)
地域森林計画対象民有林	307(3.4%)	802(40.3%)	9,316(76.3%)	2,262(71.6%)	5,082(78.3%)	17,769(54.0%)	80,052(33.1%)
保安林	2(0.0%)	220(11.1%)	9,565(78.4%)	1,379(43.7%)	1,909(29.4%)	13,075(39.8%)	50,394(20.9%)

（カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成16年3月）

自然公園地域：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	1市4町合計	神奈川県計
国立公園	0	0	0	0	0	0	10,375(4.3%)
国定公園	0	0	6,725(55.1%)	0	0	6,725(20.5%)	27,572(11.4%)
特別保護地区	0	0	375(3.1%)	0	0	375(1.1%)	1,867(0.8%)
特別地域	0	0	6,350(52.0%)	0	0	6,350(19.3%)	25,705(10.6%)
県立自然公園	0	0	411(3.4%)	2,033(64.4%)	1,752(27.0%)	4,196(12.8%)	17,210(7.1%)
特別地域	0	0	411(3.4%)	1,426(45.1%)	1,322(20.4%)	3,159(9.6%)	12,672(5.2%)
普通地域	0	0	0	607(19.2%)	430(6.6%)	1,037(3.2%)	4,538(1.9%)

（カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成16年3月）

自然保全地域：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	1市4町合計	神奈川県計
自然環境保全地域	0	226.2(11.4%)	501.5(4.1%)	12.8(0.4%)	600.0(9.2%)	1,340.5(4.1%)	11,215.9(4.6%)
特別地区	0	0	0	0	16.6(0.3%)	16.6(0.1%)	16.6(0.0%)

（カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成16年3月）

(2) 土地利用現況

大区分別の土地利用をみると、藤野町では山林が町域の約80%を占め、3町と同様に山林が一番多い割合となっている。また、津久井町、相模湖町及び藤野町では、山林が町域の7割以上を占めているため、宅地などの都市的な土地利用が少ない。相模原市では、宅地が市域の約30%を占めている。

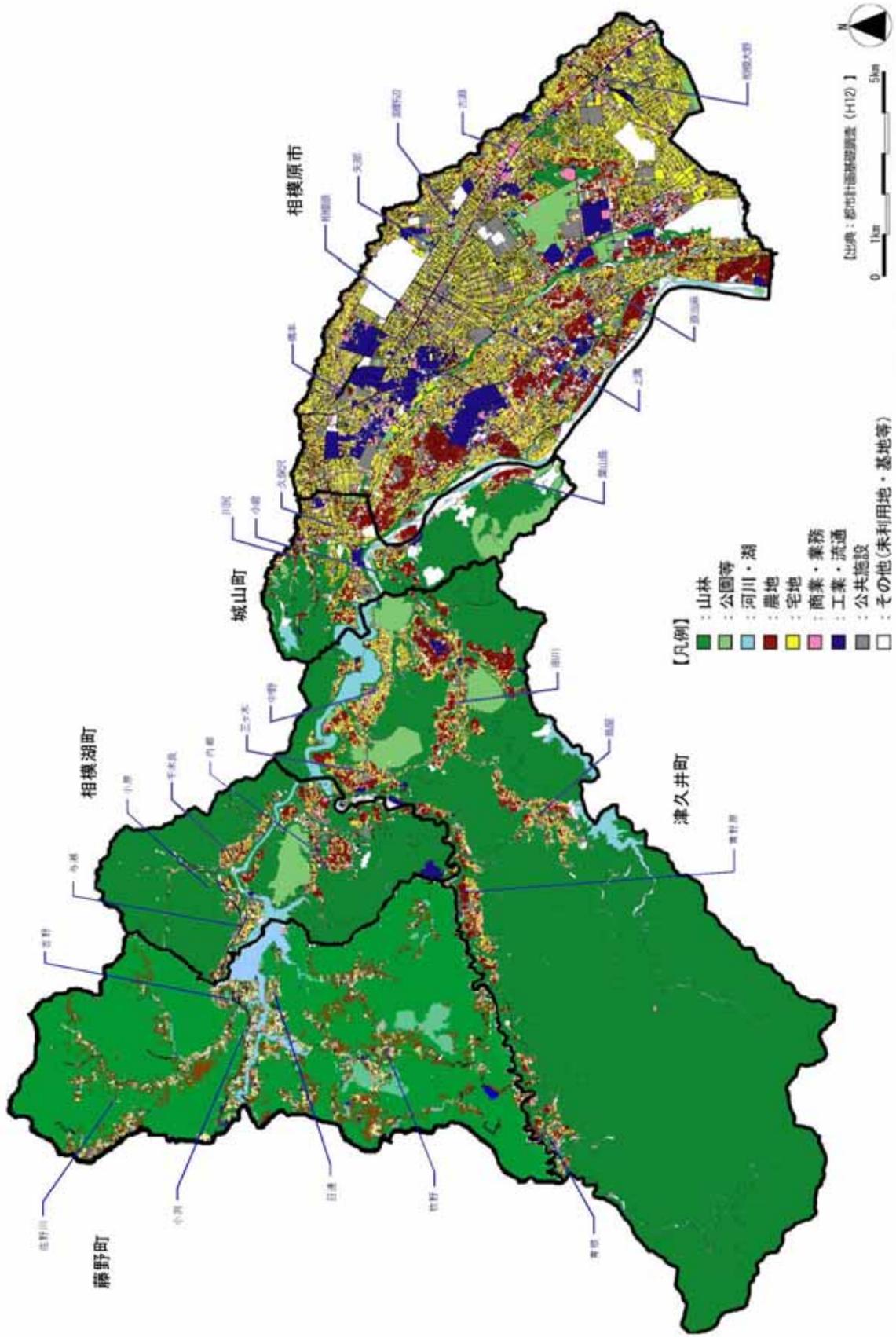
その他特徴的なものを見ると、農地、工業・流通、公共施設、交通などにおいて、相模原市が4町に比べて比較的面積及び割合が大きい。

1市4町の土地利用の現況（大区分）：単位（ha）

区 分	相模原市		城山町		津久井町		相模湖町		藤野町		1市4町合計		神奈川県計	
山林	353.4	3.9%	897.2	45.1%	10,040.8	82.3%	2,332.6	73.8%	5,241.9	80.8%	18,865.9	57.4%	95,057.4	39.4%
河川・湖	116.8	1.3%	89.4	4.5%	420.4	3.4%	117.5	3.7%	363.0	5.6%	1,107.1	3.4%	4,976.0	2.1%
公園等	369.2	4.1%	189.8	9.5%	301.9	2.5%	11.5	0.4%	152.4	2.3%	1,024.8	3.1%	8,357.4	3.5%
農地	1,216.9	13.5%	195.9	9.8%	609.2	5.0%	189.5	6.0%	367.4	5.7%	2,578.9	7.8%	27,678.4	11.5%
宅地	2,791.7	30.9%	190.8	9.6%	349.9	2.9%	115.6	3.7%	144.5	2.2%	3,592.5	10.9%	41,806.3	17.3%
商業・業務	378.1	4.2%	18.7	0.9%	31.9	0.3%	151.6	4.8%	23.7	0.4%	604.0	1.8%	5,805.8	2.4%
工業・流通	866.2	9.6%	34.8	1.7%	59.9	0.5%	33.2	1.1%	29.1	0.4%	1,023.2	3.1%	12,898.7	5.3%
公共施設	567.6	6.3%	28.2	1.4%	60.5	0.5%	39.1	1.2%	36.0	0.6%	731.4	2.2%	7,663.2	3.2%
交通	997.5	11.0%	84.4	4.2%	143.1	1.2%	71.9	2.3%	103.8	1.6%	1,400.7	4.3%	18,659.1	7.7%
その他	1,383.6	15.3%	260.8	13.1%	186.4	1.5%	96.5	3.1%	29.2	0.4%	1,956.5	6.0%	18,472.2	7.7%
合 計	9,041.0	100.0%	1,990.0	100.0%	12,204.0	100.0%	3,159.0	100.0%	6,491.0	100.0%	32,885.0	100.0%	241,374.5	100.0%

資料：都市計画基礎調査（H12）

土地利用現況



6 . 道路・交通

(1) 広域道路交通体系

藤野町は、中央自動車道及び国道20号線が東西に走り、中央自動車道相模湖インターチェンジを有する。

1市4町で見ると、相模原市を中心とした道路交通網の骨格は、国道16号が中心となっており、これを介して広域交通を担う「中央自動車道」(八王子インターチェンジ)、「東名高速道路」(横浜町田インターチェンジ)に連携している。

また、城山町を縦断する「さがみ縦貫道路」が計画されている。

周辺地域の国道としては、国道20号のほか、厚木市方面からのアクセス道路となる国道129号、3町を通る幹線道路としての国道412号、413号といった5本の国道が走っている。

このうち、国道413号は相模原市から津久井地域への唯一の骨格道路であり、日常的な混雑が問題となっていることから、相模原市内の国道16号線橋本五差路付近から藤野町内の中央自動車道相模湖インターチェンジ付近までを結ぶ「津久井広域道路」構想の実現に向け、その一部は都市計画決定されている。

1市4町を通過する国道・主な県道

種別	路線名
国道（高速自動車道）	中央自動車道
国道（一般国道）	一般国道16号
	一般国道20号
	一般国道129号
	一般国道412号
	一般国道413号
県道（主要地方道）	県道35号（四日市場上野原線）
	県道46号（相模原茅ヶ崎線）
	県道48号（鍛冶谷相模原線）
	県道51号（町田厚木線）
	県道52号（相模原町田線）
	県道54号（相模原愛川線）
	県道57号（相模原大蔵町線）
	県道63号（相模原大磯線）
	県道64号（伊勢原津久井線）
	県道65号（厚木愛川津久井線）
県道76号（山北藤野線）	

資料：市町村合併に関する調査研究会中間報告（平成15年）

(2) 鉄道・バス体系

藤野町には、相模湖町と同様にJR中央本線が敷設されている。1市4町では、6鉄道路線と延べ19の駅がある。このうち相模原市には、JR横浜線、JR相模線、京王相模原線、小田急小田原線、小田急江ノ島線の5鉄道が敷設されている。

1市4町の鉄道路線

	路線名	駅名
1	JR東日本中央本線	相模湖・藤野
2	JR東日本横浜線	橋本・相模原・矢部・淵野辺・古淵
3	JR東日本相模線	橋本・南橋本・上溝・番田・原当麻・下溝・相武台下
4	京王電鉄相模原線	橋本
5	小田急電鉄小田原線	相模大野・小田急相模原
6	小田急電鉄江ノ島線	相模大野・東林間

資料：市町村合併に関する調査研究部会中間報告（平成15年）

藤野駅における平成14年度の1日あたりの平均乗車人員は、2,982人となっている。

相模湖駅と藤野駅における年間乗車人員

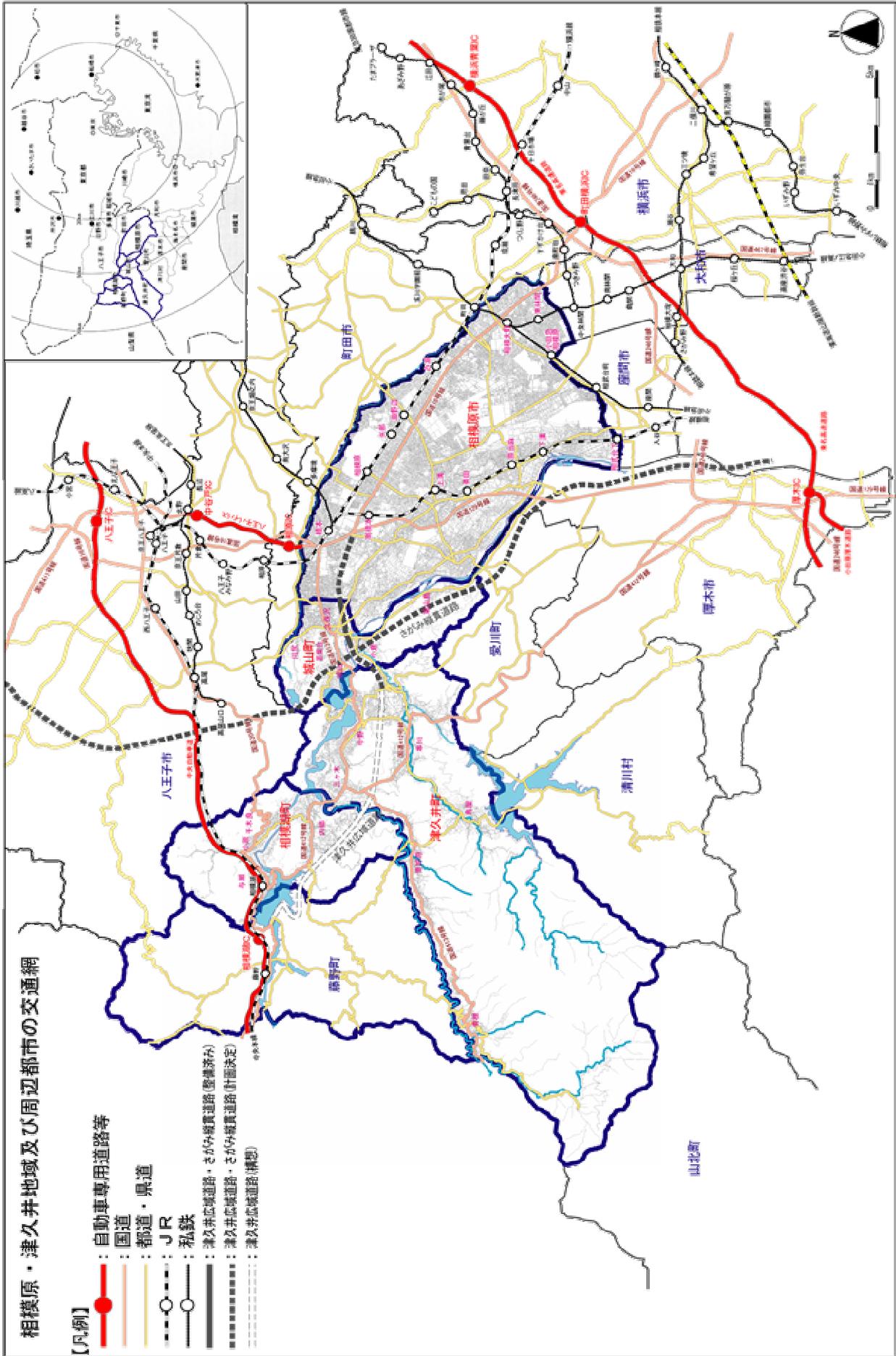
駅名	平成14年度年間乗車人員（千人）			1日平均（人）
	定期券乗車人員	定期外乗車人員	合計	
相模湖駅	836	391	1,227	3,359
藤野駅	793	296	1,089	2,982

資料：県勢要覧〔平成15年度版〕

鉄道利用の状況を、平成15年の1日あたりの総乗降客数上位5駅で見ると、相模原市内だけではなく、津久井地域の城山町、津久井町から、バス交通を介した利用客の多い橋本駅の乗降客数が最も多い。

平成15年の1日あたりの駅別乗車人員上位5駅：単位（人）

駅名	路線名	1日乗車人員
1 橋本	計	92,118
	JR東日本横浜線、相模線	52,261
	京王電鉄相模原線	39,857
2 相模大野	小田急電鉄小田原線	55,527
	小田急電鉄江ノ島線	
3 淵野辺	JR東日本横浜線	36,184
4 小田急相模原	小田急電鉄小田原線	28,389
5 相模原	JR東日本横浜線	26,724



7. 産業

(1) 産業別就業状況

産業別就業者人口比を平成7年と平成12年で比較すると、藤野町は第1次産業と第3次産業がわずかに増加し、第2次産業が減少している。1市3町では、おしならべて第1次産業がわずかに減少、第2次産業が減少し、第3次産業の割合が増加している。

産業別就業人口構成比等

都市名	国勢調査 産業別人口比						平成12年国勢調査(人)		
	平成7年			平成12年			常住人口	昼間人口	昼夜間人口比
	第1次	第2次	第3次	第1次	第2次	第3次			
相模原市	0.7	35.0	63.6	0.6	31.2	66.1	605,540	525,258	86.7%
城山町	1.7	38.3	59.7	1.6	32.2	65.1	23,036	16,940	73.5%
津久井町	2.2	43.2	54.3	1.5	38.4	59.8	30,331	23,627	77.9%
相模湖町	2.0	31.7	65.7	1.7	29.7	68.0	10,894	8,644	79.3%
藤野町	1.8	39.7	58.0	2.4	36.5	60.0	11,299	9,004	79.7%

資料：国勢調査

注) 産業別人口比は、分類不明があるため、合計が100.0にならないケースがある。

(2) 農業の実態

相模原市の農家戸数は平成12年現在で1,592戸ある。このうち専業のものは10%に満たない。また、藤野町を含めた4町では、さらに専業率が低くなっている。

農業産出額は、平成13年から14年にかけて、藤野町では減少としているが、相模原市では大きく伸びている。

農家戸数及び農業産出額

都市名	平成12年農家戸数(戸)			農業産出額(1,000万円)		
	農家戸数	うち専業	専業率	平成13年	平成14年	H14/H13
相模原市	1,592	155	9.7%	311	391	25.7%
城山町	298	16	5.4%	32	31	-3.1%
津久井町	512	32	6.3%	52	48	-7.7%
相模湖町	241	6	2.5%	14	14	0.0%
藤野町	373	17	4.6%	17	16	-5.9%

資料：農業センサスからみた神奈川の農業、生産農業所得統計

(3) 工業の実態

平成13年と平成14年で比較すると、藤野町は、製造業事業所数は変わらないが、製造業従業員数及び製造品出荷額等は増加傾向にある。

相模原市は、平成14年現在、製造品出荷額は約1兆1,221億円であるが、製造業事業所数、製造業従業者数、製造品出荷額等とも減少傾向にある。

製造業事業所数、製造業従業者数、製造品出荷額等の現況

都市名	製造業事業所数 (事業所)		製造業従業者数 (人)		製造品出荷額等 (100万円)		H14/H13		
	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	事業所数	従業者数	出荷額
相模原市	1,170	1,089	41,296	35,890	1,607,559	1,122,107	-6.9%	-13.1%	-30.2%
城山町	29	28	1,254	1,453	69,737	25,645	-3.4%	15.9%	-63.2%
津久井町	101	88	2,057	1,683	42,913	39,681	-12.9%	-18.2%	-7.5%
相模湖町	32	30	524	488	10,688	8,762	-6.3%	-6.9%	-18.0%
藤野町	40	40	651	664	13,516	14,818	0.0%	2.0%	9.6%

資料：工業統計調査

(4) 商業の実態

平成11年と平成14年を比較すると、藤野町は事業所数は減少しているが、従業員数はわずかに増加し、年間商品販売額は大きく増加している。

相模原市の年間商品販売額は、平成14年現在で約1兆2,051億円と4町と比べて大きい。

卸売業、小売業の現況

都市名	事業所数(店)		従業者数(人)		年間商品販売額 (100万円)		H14/H11		
	平成11年	平成14年	平成11年	平成14年	平成11年	平成14年	商店数	従業者数	販売額
相模原市	5,831	5,203	47,822	44,844	1,299,594	1,205,059	-10.8%	-6.2%	-7.3%
城山町	174	163	1,273	1,510	32,319	24,190	-6.3%	18.6%	-25.2%
津久井町	231	224	1,413	1,263	23,856	22,593	-3.0%	-10.6%	-5.3%
相模湖町	122	114	534	535	6,383	6,327	-6.6%	0.2%	-0.8%
藤野町	89	86	325	327	4,040	8,760	-3.4%	0.6%	116.8%

資料：商業統計調査

用語解説

*1 新市建設計画 [P.1]

法定の合併協議会が、合併後のまちづくりの方針を明確にするとともに、新市や県が実施する事業などを内容として策定する計画。合併をするかどうかの判断材料となるとともに、合併後の新市総合計画の策定に活用されることとなる。

*2 新市総合計画 [P.1]

新市が総合的かつ計画的な行政運営を図るために策定する計画。計画の策定あたっては、議会の議決を必要とし、これに即して行政運営を行うようにしなければならない。

*3 新産業 [P.2/6/7]

IT、バイオテクノロジー、ロボット等の先端技術産業、健康、福祉、環境等の生活産業などのこと。

*4 都市内分権 [P.2]

身近な地域ごとに一定の予算や権限を配分し、地域固有の課題への対応やまちづくりなどに市民が主体的に関わることができる仕組み。

*5 地域自治区 [P.2/5]

住民自治の強化等を推進する観点から、一定の区域を単位とし設置することができる。地域住民の意見を反映するため、住民等で構成する地域協議会を設置し、その地域自治区に関わる市の事務について市長に意見を述べることなどができる。

*6 N P O [P.2/3/7/8]

Non-Profit Organization の略で、「非営利団体」を指し、社会的な使命（ミッション）の実現を目指して活動する組織や団体のこと。なお、「非営利」というのは利益を上げてはいけないという意味ではなく、「利益があがっても構成員に分配しないで、団体の活動目的を達成するための費用に充てる」という意味である。またボランティアとの違いは、ボランティアが、「個人が個人の責任の範囲で活動を行う」のに対し、NPO は、「目的達成のために運営のルールを持ち、組織的、継続的に活動を行う」といったところにある。

*7 自治基本条例 [P.2]

その地域における自治の基本原則や行政の基本ルールなどが定められるもので、自治体の最高法規として位置付けられる。分権型社会の実現に向けて、地域のまちづくりの基本理念や、行政運営の基本原則、住民と行政とのそれぞれの役割と責務、市民参加のあり方と協働の仕組みなどを定めることが想定される。

*8 団塊の世代 [P.3/10]

第二次大戦直後数年間のベビーブーム時に生まれた世代で、概ね 1947 年(昭和 22 年)から 1949 年(昭和 24 年)までの 3 年間に生まれた人たちを指す。この 3 年間の出生数は約 806 万人といわれており、2000 年(平成 12 年)から 2002 年(平成 14 年)の出生数、約 352 万人の実に 2.3 倍となる。この世代を、堺屋太一(作家、元経済企画庁長官)が「団塊の世代」と名付けた。

*9 パブリックコメント [P.3]

行政機関が政策の立案又は改廃等にあたり、その案を公表し、広く住民から意見等を提出する機会を設け、提出された意見・情報を考慮して意思決定を行う手続のこと。

*10 コミュニティバス [P.4]

地域社会における交通問題の改善をはかるため、行政もしくは民間事業者が関係する機関・住民などとの連携等により、民間単独の路線バスとしては成立しない低需要区間や狭隘な地区のバスの運行や、中心市街地活性化を図るための都心交通など、公共交通不便地域の解消、利便性向上を目的とする路面公共交通システムの通称のこと。

*11 循環型社会 [P.5/6]

廃棄物等の発生を抑制し、廃棄物等のうち有用なものを循環資源として利用し、適正な廃棄物の処理をすることで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

*12 (仮称)水源環境保全税 [P.6]

森林の水源涵養(かんよう)能力の保持、荒廃林の整備など、水源環境を保全・管理するために、費用の一部を水の受益者が負担するといった考えに基づく税のこと。

*13 里山 [P.6-8]

もともとは、薪や肥料などの採取地となってきた平地や低山の林など、人里に接した小山を指しているが、近年は、「農山村の原風景」の代名詞として使われることが多い。

*14 スローライフ [P.6]

効率ばかりを優先した毎日を送る中で忘れてしまった「実感すること」を大切にした生活を取り戻すために、自分のペースで時間を楽しむことや、人と人のつながり、心とものつながりを大切にするといった、心豊かな生活をゆったりと送ること。

*15 グリーンツーリズム [P.6/7]

緑豊かな農山漁村地域において、その土地の自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動のこと。

*16 スポーツコンプレックス [P.7]

複合運動施設のこと。

*17 陸稲 [P.8]

畑地で栽培(さいばい)する稲で、「おかぼ」「畑稲」「早稲」「陸穂」とも呼ばれる。病気などに強く、手間がかからないのが特徴であるが、水稻にくらべて収量ははるかに少なく、食味に劣るが多い。

*18 建ぺい率 [P.8]

建物の敷地面積に対する建築面積の割合のこと。

*19 容積率 [P.8]

建物の延べ面積の敷地面積に対する割合のこと。

*20 ゾーニング [P.9]

ここでは、地域内を、土地利用形態や特性、あるいは新たな意味づけによって、いくつかのゾーンに区分けることを指す。

*21 アイデンティティ [P.10]

「自分が自分である」という明確な意識を持つ状態のこと。ここでは「他地域とは異なる、まさに藤野町地域そのもの」といった意味である。

*22 フィルムコミッション [P.10]

映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるため、映像製作者と地元関係機関との調整を行うほか、エキストラの手配、各種の許認可申請を支援し、映像製作者をサポートすること。地域経済、観光振興に大きな効果をもたらす。

*23 今西祐行 [P.10]

いまにしすけゆき(1923年 - 2004年)。大阪府生まれ。「肥後の石工」や広島への原爆投下など戦争を題材にした作品で知られる児童文学作家。「農業こそ人間を育てる」と、藤野町に私設の「菅井農業小学校」を開設(1987年)。都会と地元の子供たちの交流を図る活動など、農業を軸に様々な活動を行った。

*24 ドメスティック・バイオレンス(DV) [P.11]

配偶者や恋人など親密な関係にある(あった)者に対して身体的・性的・心理的攻撃を含む暴力を繰り返しふるうことで、

- 1) 身体的暴力 (殴る、蹴る など)
- 2) 精神的暴力 (脅す、ののしる、卑下する、無視する など)
- 3) 経済的暴力 (生活費を入れない、借金を重ねる など)
- 4) 社会的暴力 (手紙・電話の監視、行動の監視・制限、親兄弟・友人との付き合いを禁じる、就労の妨害 など)
- 5) 性的暴力 (強要、暴力的、避妊に非協力、浮気 など)

などに分けられている。

藤野町市町村合併推進協議会
藤野町合併まちづくり検討委員会

事務局：藤野町 総務部 企画課 合併推進班

〒199 - 0292 神奈川県津久井郡藤野町小淵 2000

TEL:0426-87-2117 FAX:0426-87-4347

E-mail : gappei@town.fujino.kanagawa.jp

HP : <http://www.town.fujino.kanagawa.jp/cgiexe/index.cgi>

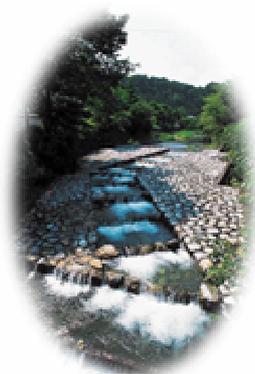
平成17年1月 発行



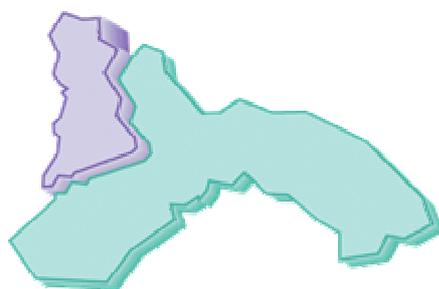
語り合う石たち



秋山川



沢井川



緑のラブレター



山の目



弁天橋

藤野町市町村合併推進協議会
藤野町合併まちづくり検討委員会
